

1 研究主題

ゆかりの地を巡り「矢沢 幸」をさぐる

2 研究の概要

矢沢幸とは、見附市の詩人である。昭和19年に生まれ、上北谷小学校2年生の時に腎結核を発病し入院を繰り返す中、14歳で詩を書き始めた。のちに栃尾高校に入学して高校生活を送るが、再入院。21歳の若さで没した。死と向き合う病苦との戦いの中で綴られた500編もの詩は、生命の詩とも言われている。

矢沢幸のことを知り、今後の見附の教育に生かそうと実地研修を行った。

3 研究の実際

矢沢幸記念事業実行委員会の代表である加野邦昭様、実行委員の池山久栄様を講師に招き、ゆかりの地を案内、説明していただきながら巡った。生家では、実の弟である矢沢元さんから話をお聞きすることができた。

(1) 大平森林公園 詩碑見学

詩「少年」が刻まれた詩碑。平成3年に、全国の矢沢幸を慕う人々から協賛を得て建立。

(2) 上北谷小学校 壁画見学

平成9年に体育館の側面に詩「少年」「武器」などの壁画が取り付けられた。

(3) 墓碑、生家

墓碑は、13回忌に建てられた。詩「風が」が刻まれている。

(4) 諏訪神社見学

生家の目の前にあり、矢沢幸が幼少期によく遊んだ神社。小学校2年生の時、雪の上で小便をして発病に気付いた場所。

(5) 上北谷公民館内 矢沢幸コーナー見学

平成28年にオープン。矢沢幸の生涯を知ることができる。

(6) ネーブル見附 矢沢幸コーナー見学

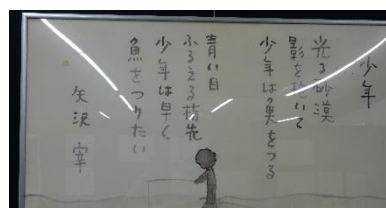
矢沢幸の生涯、詩を知ることができる。関連資料、書籍なども展示、販売。矢沢の詩にやなせたかしさんが絵を描いたパネルも展示されている。



大平森林公園「少年」の詩碑



上北谷小学校の体育館の壁画



ネーブル見附 やなせたかしさん
詩「少年」のパネル

4 成果と課題

ゆかりの地を巡ることを通して、見附に素晴らしい詩人がいたことを改めて知った。アンパンマンの作者やなせたかしさんは、矢沢幸の詩「少年」について次のように述べている。

もしぼくが、日本の現代詩の詩集を選ぶとすれば、この詩をトップに持っていきたいぐらいよくできた作品なんですね。書いていることは単純で、しかも難しい言葉は一つもないんだけど、詩の広がり非常に広い。

やなせさんは、実際に矢沢のふるさとである上北谷地区を訪れるほど、矢沢の詩はやなせさんの心をつかんで離さないものだったそう。それだけ偉大な詩人がいたことを子どもたちに伝えていくことが必要だと感じた。また、実行委員会の方のお話を聞くことで、詩を継承してだけでなく、矢沢の生き方も伝えることを通して、子どもたちが自分と向き合った詩を書いていくことのできる授業の大切さを実感した。そのような授業をどのように作っていくかが、今後の課題である。